

1. 排泄

～3 歳以上児の環境を考える～

☆ 子どもの姿

2 歳児ころにはおむつがはずれる子が多いが、最近では 3 歳児に入園・進級したときにまだおむつがはずれていない子が一定数いたり、発達特性などで 5 歳児でも排泄の自律が進んでいない子がいたりすることも多いように感じます。

2 歳児の様子は
どうだろう？

今日は床で
やってま～す

個人のおむつ替え用タオルをおしりの下に敷き衛生面にも配慮します。
子どもたちは「床がいいかな」「ベンチがいいかな」やりやすい方を選んでやっています。



ここは 2 歳児専用のトイレ。保育室から直接入っていくことができます。



☆ 気づき

保育室（あそびと生活の場）と排泄が密接な位置関係の環境となっている感じ。

3 歳以上児の
様子は？

この線は、トイレに行く子たちが
上履きを脱いでおく場所です



この引き違い戸は保材庫の
出入り口です。

3 歳児トイレの共有部分。
順番を待つ子が並んだり、手
を洗う子がいたりします。

それぞれ、3 歳児トイレや 4、5 歳児トイレ近くの廊下なので、この子たちがおむつやズボンをはき終わるまでの間に、何人もの子どもや保育士が通ります。



☆ 気づき

やはり、2 歳児と 3 歳以上児の保育スペースの環境は違うね。



☆ かかわり・配慮

必要だと思う条件をだして、いくつか絞って対策を取ってみることに。

「周りからの視線はある程度遮りプライバシーに配慮する」「子どもが孤立しないように保育士からは見やすい高さ」「衛生的に扱える」「持ち運び可能」「コンパクト」「軽い」「本人が周りを見ることができる」まずはこの条件で対策を取って、必要に応じて変更していくことで3歳以上児の排泄の場面への対応の一つの方法を模索していきたいと感じます。



みんなまだ居る
ね。僕ももうす
ぐだよ。



軽くて加工しやすく安価、アルコール消毒や塩素系での拭き上げができるので、プラ段を利用して衝立を作成。衛生面に配慮して、床に座る際には個人用のおむつ替えタオルを使用する。



途中でおむつを引き上げながら周りの様子を確認して、それからズボンをはきました。

☆ 考察

○ 良い効果と感ずること

- ・トイレトレーニング中の3歳児や4, 5歳児の配慮が必要なこどもにとって、おむつの着脱が安心してできる場になっています。
- ・クラスの友だちの動向が見えることで「まだ、みんないる」という安心感だけでなく、中から様子を見ることで「自分も早く行こう」という意欲を引き出すことにもなりました。
- ・入りたくないという子には以前と同様に衝立無しで対応することもできます。
- ・持ち運びができるので別の場所でも使うことができ、別の場面でも子どものプライバシーを守ったり、安心感を確保したりするために使うことができます。(着替え、体調が悪い子の対応など)

○ 今後の課題と感ずること

- ・3歳児の1, 2名に対応するにはちょうど良い大きさだが、それ以上の人数がいる場合は順番を待つ必要があり時間差が大きくなるので、保育の中での工夫が必要です。
- ・4, 5歳児で衝立の中に保育士と一緒に入って援助する場合は衝立の中のスペースを広くする必要があり、その分廊下の幅が狭くなるので安全面への配慮が必要になります。
- ・衝立の出し入れに保育士がタイミングよく対応する必要があります。

2. 切り替えの場面

～まだ遊びたいよ～

【場面・子どもの姿】

水遊びをしている2歳児。そろそろクラスに入ろうと担任が「ご飯になるからお部屋に入ろう」と言葉をかけています。大半の子どもはクラスに入っていました。まだまだ遊び足りない子どもは霧吹きに夢中です。



【気づき・かかわり・配慮】

夢中になって遊んでいる姿を見て「まだ、遊びたいのかな」と思い、存分に遊べるよう保育士が一人残り、様子を見守りました。背景には“満足するまで遊ばせてあげたい”という保育士の思いがあります。また、満足することで子どもが自分で気持ちを切り替えて、納得をして次の活動へ移ってほしいとの願いがあるからです。



お部屋に入りたい



部屋に入って先生
や友達と一緒に絵
本を見たよ



【考察・期待される子どもの育ち】

- たくさん遊べたことで満足し、自分で気持ちを切り替えクラスへ入ることができました。
- 保育士は何度か周りの様子（ほとんどの子どもがクラスに入っていること、食事の時間が近くなっていること）は伝えました。様子を見てみると、程なく保育士の近くに来たので“クラスに入りたいという合図かな”と思い言葉をかけると「入る」という返事でした。子どもは満足すると何かしらの“合図”を出すことがあります。保育士がその“合図”を見逃さないことが大切です。園児自ら気持ちの切り替えができる場面が増えていくことを期待します。

3. ①食事 以上児

～もう少し遊びたい！！～



まだ作り
たい！！



先、食べているね！

【場面・子どもの姿】

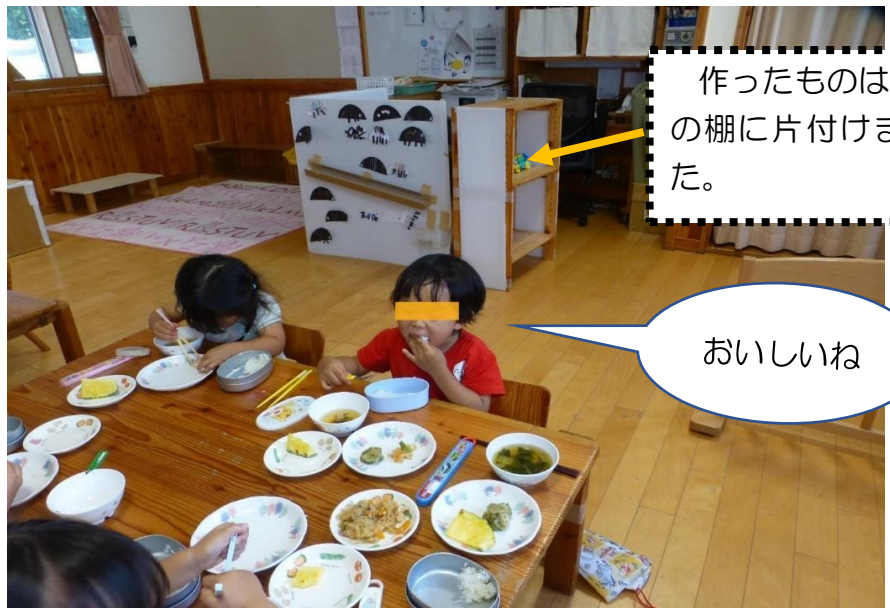
3歳児のAは、活動の切り替えがうまくできないことがあります。この日もお昼の時間になりましたが、まだ遊びたくて一人でブロック遊びをしていました。保育士は先に食べることを告げ、Aが見える位置で見守っています。その後しばらく遊んでいましたが、納得できる物が作れたのか？何も言わずに片付けて、自分の席に戻って食べ始めました。



Aからも友達のように
すが分かるような衝立
を置いています。

友達は、Aがまだ
遊んでいても給食の
準備をして食べ始め
ました。

【気付き・関わり・配慮】



作ったものは、この棚に片付けました。

おいしいね

Aは遊びたいという気持ちが強く、納得がいかなないとなかなか行動に移せません。保育士はAが自分で気持ちを切り替えられるように環境を整え言葉がけをしていました。保育士は、日々一人一人の特徴を捉えて子どもたちと関わっているので、周りの子どもたちもAを責めるようなことは言わず食事をしていました。クラス全体が一人一人を大事にしているように感じます。

【考察 期待される子どもの育ち】



保育士や友達に認められていることで、納得がいくまで遊ぶとスムーズに給食に移行できました。いろいろな場面でまだ自分の思いを通そうとする部分も多いのですが、自分の思いが満たされると周りにも目が向けられ、自分で考え行動できるようになることを期待します。

4. ① 午睡 3歳以上児 ～異年齢の関わりを考える～

私も～

僕も！

一緒に寝ていい？



待ってて、
今、用意するから…

私の隣に来る？



うん！



【場面・子どもの姿】

4月当初、午睡を嫌がり布団に入りたがらない新入园児（3歳児）がいました。兄姉のいる年少児の中には、お兄ちゃんお姉ちゃんと一緒に寝たい…という声があり、安心できる人と好きなお部屋で午睡をするのも良いのではと職員間で相談し、午睡を楽しみにできる環境を考えました。「午睡は嫌！」と言っていた子も、好きな人となら安心して布団に入れるようになっていき、年長児も布団と一緒に敷いてあげたり、「今日は僕が年少さんのお部屋に行っておあげる」と言ってくれたりして互いの部屋を行き来しながら午睡をしています。



おやすみなさい



【気づき・かかわり・配慮】

- ・年少さんに自分から声をかけ隣で寝ないかと誘ったり、布団を一緒に敷いてあげたりする年長児がいます。早めに年少さんが布団を運んでくる日には、急いでゴザの用意をしなくては・・・と年長さんも頑張ります。年長児の部屋は、カーテンで少し薄暗くなりますがその雰囲気も心地よくて、入眠しやすい子もいるようです。
- ・各学年の担任は、その日のメンバーや人数によって声を掛け合い、臨機応変に保育室を行き来して、安心安全に眠れるよう見守っています。保育士の連携、コミュニケーションが大切になってきます。

【考察・期待される子どもの育ち】

年少児は安心できる人と一緒に眠れるということで、午睡が楽しみになり、自分から身体を休めようという気持ちになっていったように思います。また、年長児にとっても頼られる喜びを感じ、年下の子の世話をしあげたい気持ちが芽生え思いやりの心が育つと思います。なぜ午睡が大切なのかという事も子どもたちに知らせていきたいですし、「お昼寝すると気持ちいい～」と思える時間になると良いと思います。

4. ② 午睡 1, 2 歳



～誘いは子どもたちの様子に合わせて～



眠くなった子はお先に夢の中

もう、ねむいよ～
おやすみなさい

僕たちはまだ眠くないよ。
ガタンゴトン・・・
電車ごっこしよう！

しばらく遊んだら、お昼寝の時間

お布団駅はどこかな？



1、
入眠



ひとり、またひとり・・・と、
お布団駅につきました



うさぎちゃんと
一緒に寝るの。



2、目覚め

美味しいおやつだよ
そろそろ起きようか？

おやつ準備



まだ眠いよ～
夢の中・・・

おさきに、いただきま～す！

おいしいね～

【場面・子どもの姿】

- ① 1、2歳混合クラス。1歳児さんは給食を食べるとすぐ眠ってしまう子どもたちもいます。そして、まだ眠くない子ども数人で片付け途中の椅子を並べて電車ごっこが始まりました。「ガタンゴトン～しゅっぱ～つ！」と盛り上がっています。保育士は個々に合わせて午睡前のトイレに誘ったりおむつ替えなどをしたりします。電車ごっこに入らない子どもたちは保育士と一緒にお昼寝布団を敷きました。そろそろお昼寝の時間。「電車みなさん。お布団駅はどこかな～？」と保育士が声を掛けました。電車ごっこをしていた子どもたちはだんだんに自分の布団を探して布団に入りました。お気に入りのぬいぐるみを抱いて寝る子もいます。
- ② 早く目覚める子、いつまでも寝ている子ども様々ですが、個々の状態に合わせて気持ち良く目覚められるよう時間に幅をもたせています。おやつを食べながら友達が起きるのをまっています。

【気づき・かかわり・配慮】

健康な生活を送るうえでとても大切な午睡の時間。一人一人の状態を把握し、その場その時の気持ちを汲みとりながら、心地よい関わりの中で午睡に向かう気持ちになっていけるような言葉かけを工夫し、適切な援助をしていく事が大事だと考えます。子どもと一緒に布団を敷くことも、子どもの気持ちを午睡へと自然に向かわせてくれます。目覚めも同様に応答的な対応を心掛け、無理なく目覚めておやつに向かうことができるよう、時間に余裕をもたせています。複数担任なので、保育士の連携も大切です。

【考察 期待される子どもの育ち】

睡眠という生理的現象が大きく関わる午睡の場面で、応答的に受け入れてもらえ、心地よい感覚を感じられることで、保育園が安心できる場所であり保育士を信頼できる人として頼ることができるようになり素直な自分を出せるようになると思います。子ども自身の心の安定と身体の健康につながっていきます。

4. ③午睡 年少児

～時間をかけて～



寝るのは嫌だから、
お部屋のすみっこ
で見てる。

お布団でかくれんぼ
するんだ！

①4月



②5月



今日は〇〇ちゃん
と一緒にいいな。
みんなと寝てみよ
うかな。

トントンしても
らうと安心する
なあ。

③6月



④7月



【場面・子どもの姿】



入園して午睡が開始すると「ねんね嫌だ！」と訴え泣いた年少児。まずは安心して過ごせる場を自分で選んで布団を敷き、そこで過ごすようにしました。担任と“お布団かくれんぼ”をするうちに布団に入るようになり、慣れてくると「今日は〇〇ちゃんと寝る」と友だちの側に布団を敷く日がでてきて、7月には頑なに拒んでいた寝かしつけを受け入れてくれるようになりました。

【気づき・かかわり・配慮】

午睡を拒否する背景に、入所したばかりで不安な気持ちが関係していると感じたので、できるだけ個別に対応し、子どもが安心感を得て、次第に保育所の生活になじんでいけるように配慮しました。

具体的にはまず、家庭で午睡習慣がなかったので眠ることを強制せず、安心して休息できる雰囲気やスペースを確保することを第一としました。その中で、布団を敷く場所を自分で選べるようにしたり、“お布団かくれんぼ”で担任と関わりながら布団に入るきっかけを作ったりしました。担任が不安な気持ちを理解し、時間をかけて子どもの気持ちや欲求に応えるように努めました。



【考察・期待される子どもの育ち】

布団を敷く場所を自分で選ぶことができるようにしたことで、“気持ちを尊重してもらえる”という安心感ができたのではないかと思います。さらに、友だち関係ができていく中で“〇〇さんと一緒にいい”という思いで友だちの隣に布団を敷き、一緒に寝ようとする姿につながったと感じます。

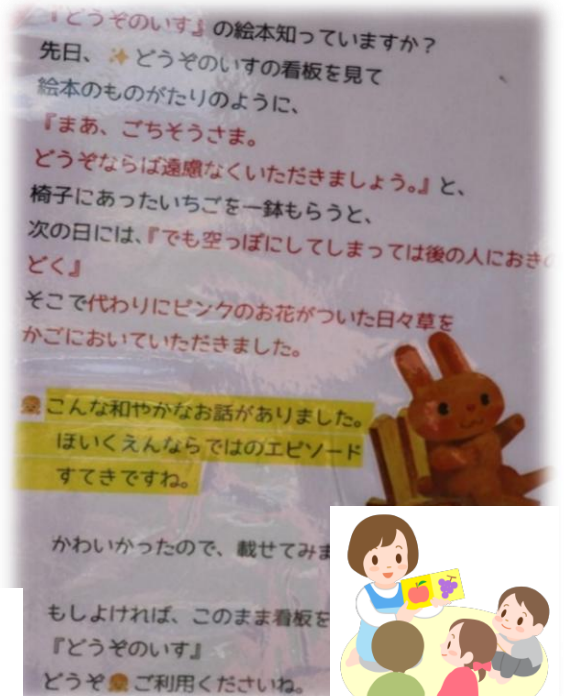
5. ①環境設定

～今日は、何があるかな？

場面 1

正面玄関に『どうぞのいす』の看板(以前劇遊びでつけたもの)を置き、園で育てた いちごの鉢を置いてみました。すると、🌟どうぞのいす🌟のお話を知っている親子が『どうぞというなら、遠慮なくいただきます』でも、『空っぽにしてしまっは後の人におきのどく』と、日々草の鉢と交換していきました。

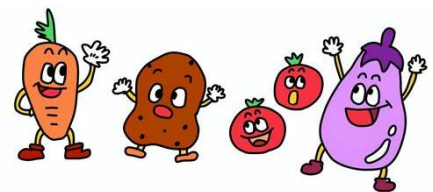
次の日、そんなかわいらしいエピソードを玄関に紹介し、載せてみました。すると・・・



場面 2

祖父母の方々の送迎もある中、家の自家製野菜の物が置かれるようになりました。お母さんたちは、『新鮮でおいしそうな野菜があるね』と、喜ぶ姿があります。『おうちで何作ろうか？何食べたい？』『皮むくのお手伝いする』など、親子で会話する声が聞かれます。

カランコエです。



場面 3

子どもたちの手作り糸電話やネックレス、コースターなど、お母さんと一緒に手作りしたものがたくさん並びました。『○○ちゃん、作ったんだよ。』『わたしも作って誰かにあげたい。』などの声もありました。

てづくりおもちゃ



気づき・関わり・配慮



- ・子どもたちの好きな絵本で劇遊びが行われ、看板があったので椅子に置いてみたことで、多くの反響がありました。
- ・子どもが関心のある絵本から物語の内容のまねっことで、親子や家族の会話が増え、一緒に考えたり楽しんだりができました。
- ・誰かが置いてくれたものに興味をもち、それをもらい、もらうためだけではなく、これから訪れる誰かのために自分のできる事を相談して準備する姿があり、また、それを楽しんでいるように感じました。
- ・自分の作ってきたものを袋に入れたいけど、『せんせい、どうしたらいい?』と相談ありました。一緒に考え、『だれかに よろこんでもらえると うれしいな。』と、温かい気持ちになりました。

考察・期待される子どもの育ち

- ・見えない人への気持ちを考える機会をもつことで、日頃の友達との関わりにつながってくれたらと思います。
- ・絵本のストーリーから子どもはもちろん、保護者にも関心をもってもらい、一緒に考えたり作ったり、楽しんでもらうことができました。正直、こんな発展になるとは思いませんでした。私たちも教えられた出来事でした。
- ・これから関わるたくさんの人、ものにも大切に携われることに期待します。

5. ②環境設定

～クラスの友達と関わりながら～

【場面1】

・毎朝の身支度を整えるための保育室の環境設定。個別に配慮が必要なA児にのみパーテーションで空間を作っていました。しかし、この空間が逆に他の子どもたちの目をひくことになり『みないでよー』『こないでよー』とA児が落ち着いて身支度を整えられないことがありました。



出席シールを貼る場所



動線を分かりやすく、簡潔に…

【場面2】

・年少、年中混合の少人数クラス。年中A児は午睡明けの身支度の際、保育士が声をかけることが多くなっていました。視覚的に流れが分かりやすくなるように絵カードを作り、保育室の黒板に日常的に貼っておくことで、A児のために考えた環境設定ではあったが、年少児もカードに興味を持ち、自分たちで確認し合っています。



【気づき・かかわり・配慮】

- ・気が散りやすいA児のために考えた支援でしたが、他の子どもたちにとって特別な空間に見えてしまっていることに気づきました。お互いに自然に過ごせるようにするにはどのような環境であると良いかを考え、ロッカー前をパーティションで区切り、身支度を整える場所として全員がこの空間を使うようにしました。(場面1)
- ・出席シールを貼る、連絡帳を出す、園児服を片付けるなどの身支度の動線がこの空間の中で済ませられるよう配置を工夫しました。そうした中でやるべき事が分かりやすくなったように思います。(場面1)
- ・保育士のA児への声かけが少なくなり、見守りができるようになりました。(場面2)
- ・保育室の黒板に日常的にカードを貼っていたことで、年少児もカードに興味を持ち、保育士に聞く前に自分で確認し、教え合う姿が見られるようになりました。(場面2)
- ・A児だけが特別ではない、人権の配慮にもつながります。(場面1・2)

【考察・期待される子どもの育ち】

- ・A児は自分だけの空間があることで、自分の空間に入ってほしくないという気持ちになっていたように思います。空間を全員が共有することで、自然に受け入れることができたのだと思います。
- ・友達の動きを見て、次にやる事を保育士の声かけがなくても分かり、自分でできることが増えました。
- ・午睡明けの身支度では、声かけで支援するより伝わりやすくなりました。
- ・子ども同士での声かけのきっかけが生まれ、A児が友達との関わりの中で育ち合う姿が期待できます。